



農林中央金庫



日本政策金融公庫

2023年7月31日

農林中央金庫 福島支店

日本政策金融公庫 福島支店

震災復興のため営農再開した葛尾村酪農法人の最新型牛舎稼働について ～牛糞を堆肥化し循環型農業を実現～

農林中央金庫（略称：「農林中金」）福島支店および日本政策金融公庫（略称：「日本公庫」）福島支店は連携して、葛尾村で酪農復興に取り組む株式会社佐久間牧場（代表取締役：佐久間信次、以下「同社」）に対して、事業計画の策定を行うとともに新牛舎稼働に伴う素牛導入資金1億円を融資し、同社の構想実現を支援しましたのでお知らせします。

同社は、2023年7月29日より新牛舎の稼働を開始します。新牛舎は搾乳ロボット4台を備え、搾乳牛・育成牛合わせて500頭規模の飼養が可能な最新型の施設です。加えて、新牛舎の隣には大型の堆肥舎を構え、発生する牛糞を堆肥化してデントコーンや牧草の栽培に活用することで、同社は循環型農業を実現します。

◆東日本大震災で打撃を受けた葛尾村の酪農

葛尾村は2011年3月11日以降、村内全域が警戒区域または計画的避難区域に指定され、全村民が避難を余儀なくされました。同社代表取締役の佐久間信次さんと、息子で取締役の哲次さんも、震災前は飼養頭数130頭規模で酪農経営していましたが、震災の影響により休業せざるを得ない状況に陥りました。

◆営農再開、酪農復興へ尽力。7年越しの思いが結実

同社は2012年に法人化のうえ、2016年に一部避難指示解除されると帰村し、営農再開に向けて準備を進めてきました。2018年には初妊牛8頭を導入のうえ営農を再開し、度重なる放射性物質検査を経て、2019年より本格的に生乳の市場出荷を再開しました。

段階的な増頭により、2023年6月には震災前を上回る飼養頭数240頭規模まで規模拡大を進めました。そして今回、国の福島再生加速化交付金を活用して建設した最新型牛舎が稼働します。

2016年の帰村当初から、今回の新牛舎建設に向けて、農林中金と連携のうえ事業計画を策定し、行政との協議を重ねてきたこともあり、同社にとってまさに7年越しの思いが結実したものとなります。

◆地域活性化・畜産業振興の担い手として

今回の新牛舎建設により、同社は、葛尾村における中核的法人として、地域の畜産業を振興し、雇用創出、農業者の所得向上ならびに地域活性化に寄与することを目指します。農林中金は、事業構想段階から同社と二人三脚で、営農再開へ向けた事業計画の策定や行政機関との調整等を支援してきました。日本公庫は、計画の妥当性や地域振興に果たす役割を評価したうえで、2018年から農林中金と連携して継続的に素牛導入資金を融資してきました。

農林中金および日本公庫は引き続き同社の経営をサポートしていくとともに、東日本大震災からの復興や地域農業の振興に向けた取組みを支援してまいります。

【同社の概要】

法人名	株式会社佐久間牧場
所在地	福島県双葉郡葛尾村大字落合字大笹 486 番地
設立年月日	2012 年 6 月 1 日
資本金	2,500 万円
役員・従業員	役員 4 名、従業員 7 名（うち臨時雇用 1 名）
事業内容	酪農業、飼料作物の栽培
事業規模 (2023 年 6 月時点)	飼養頭数 240 頭（うち育成牛 120 頭、経産牛 120 頭） 牧草栽培面積 6.5ha、デントコーン 13ha



佐久間信次代表取締役（左）と佐久間哲次取締役（右）



牛舎内の搾乳ロボット

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫福島支店（刀根、田村）TEL：050－3853－7400

日本政策金融公庫福島支店（清水）TEL：024－521－3328

以 上